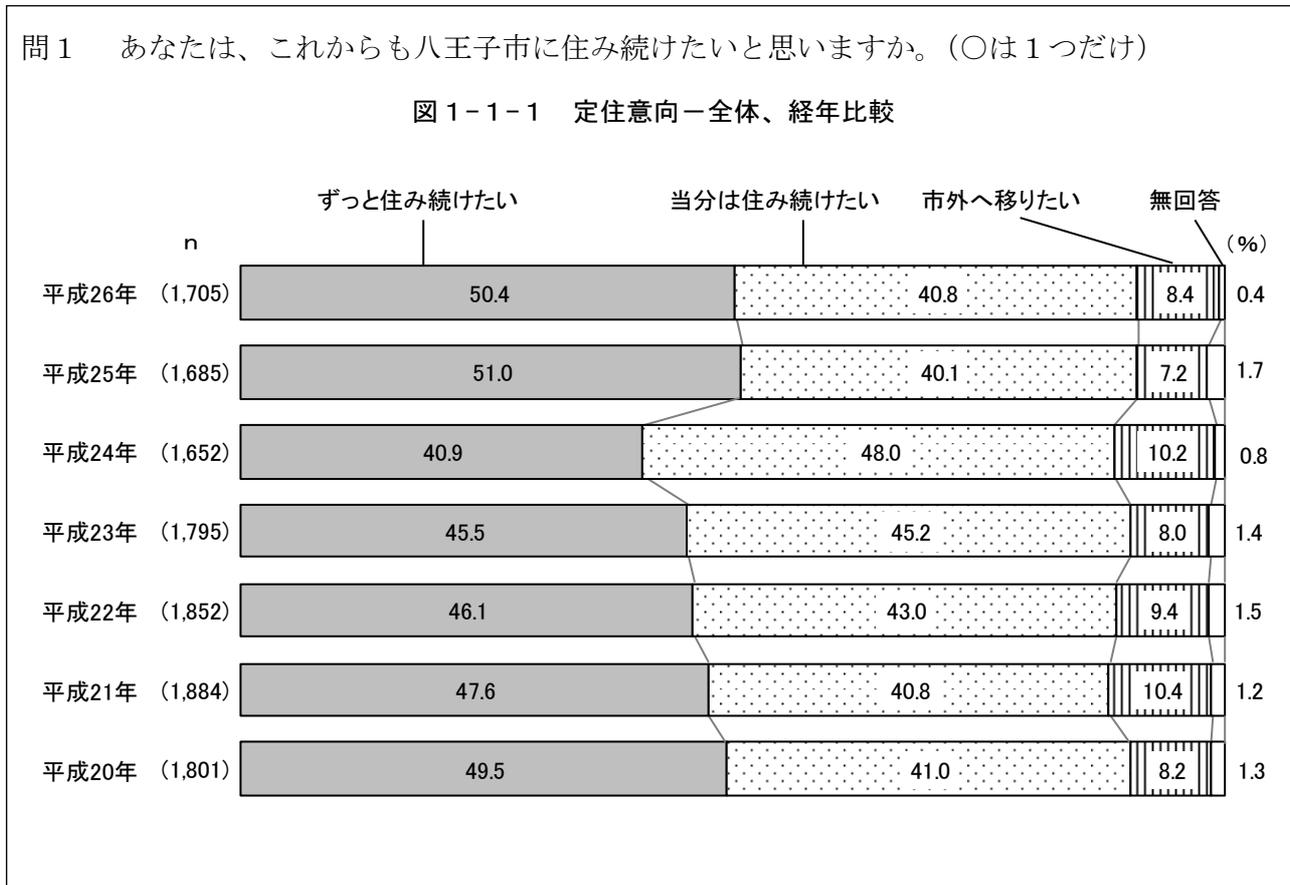


III 調查結果

1. 定住意向

(1) 定住意向

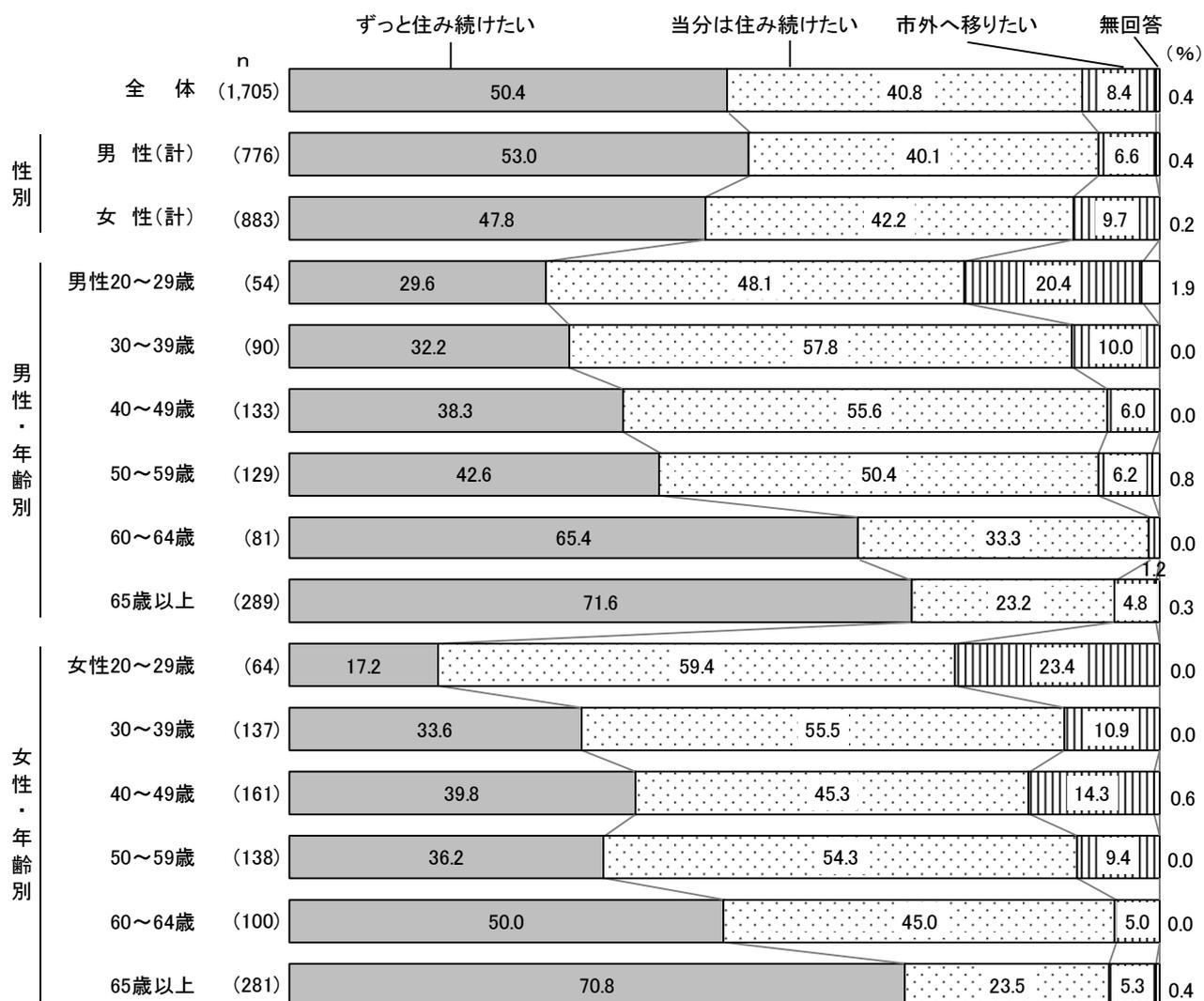
◇《住み続けたい》は9割強



八王子市の定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(50.4%)が最も多く、次いで「当分は住み続けたい」(40.8%)となっている。「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた《住み続けたい》(91.2%)は9割強を占めている。

過去の調査と比較すると、「ずっと住み続けたい」は平成20年以降平成24年まで減少傾向にあったが、平成25年に10.1ポイント増加した。今回調査では前回調査と比較して《住み続けたい》に変化はみられず、9割強となっている。(図1-1-1)

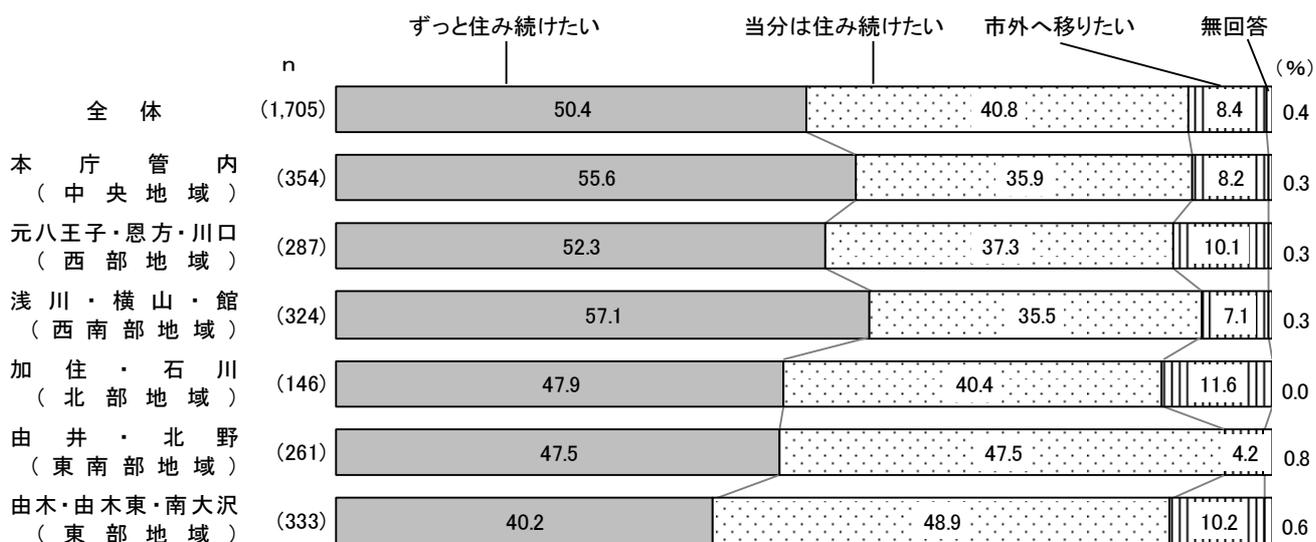
図 1-1-2 定住意向－性別・年齢別



性別にみると、「ずっと住みたい」は男性の方が女性よりも5.2ポイント高くなっている。

性別・年齢別にみると、「ずっと住みたい」は男女ともにおおむね年代が上がるにつれて割合が多くなり、特に男性65歳以上（71.6%）と女性65歳以上（70.8%）で7割以上となっている。一方、「市外へ移りたい」は男性20～29歳（20.4%）と女性20～29歳（23.4%）で2割以上と、他の年代と比較して多くなっている。（図1-1-2）

図 1-1-3 定住意向－居住地域別



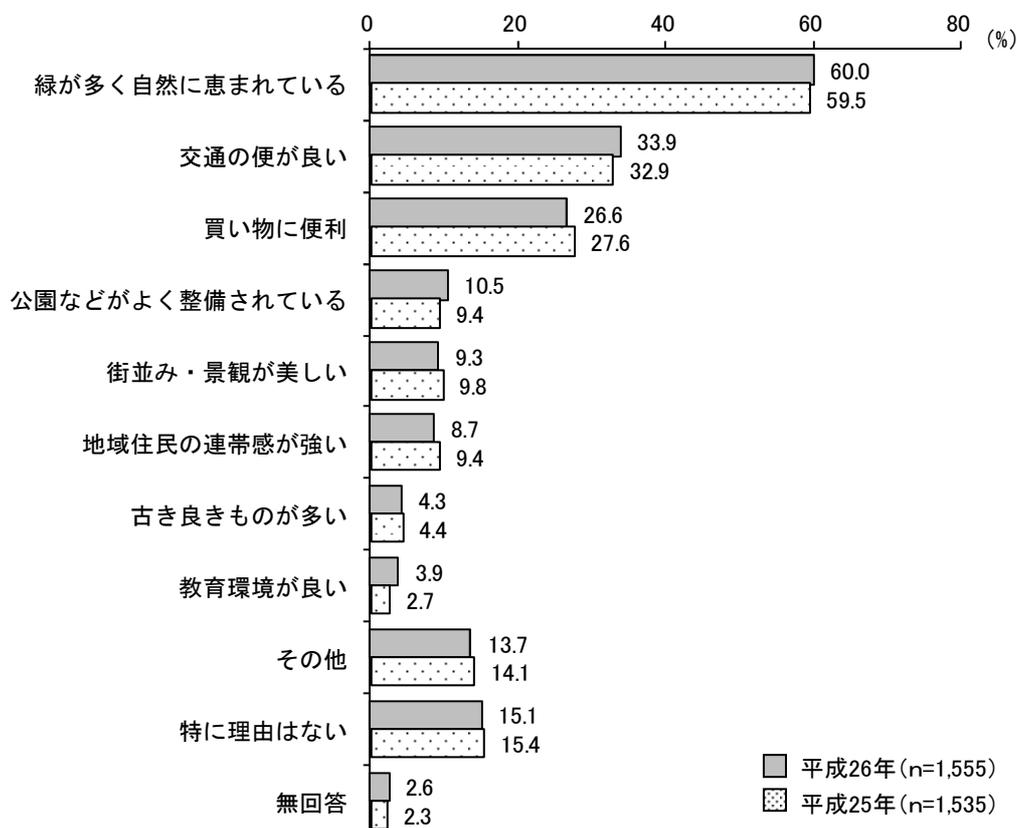
居住地域別にみると、「ずっと住みたい」はすべての地域において9割前後となっている。特に、「ずっと住みたい」は本庁管内（中央地域）（55.6%）と浅川・横川・館（西南部地域）（57.1%）で5割台半ばを超えて多くなっている。一方、由木・由木東・南大沢（東部地域）（40.2%）で約4割と、他の地域と比較して低くなっている。（図1-1-3）

(2) 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」が6割

(問1で「1 ずっと住み続けたい」または「2 当分は住み続けたい」とお答えの方に)
問1-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

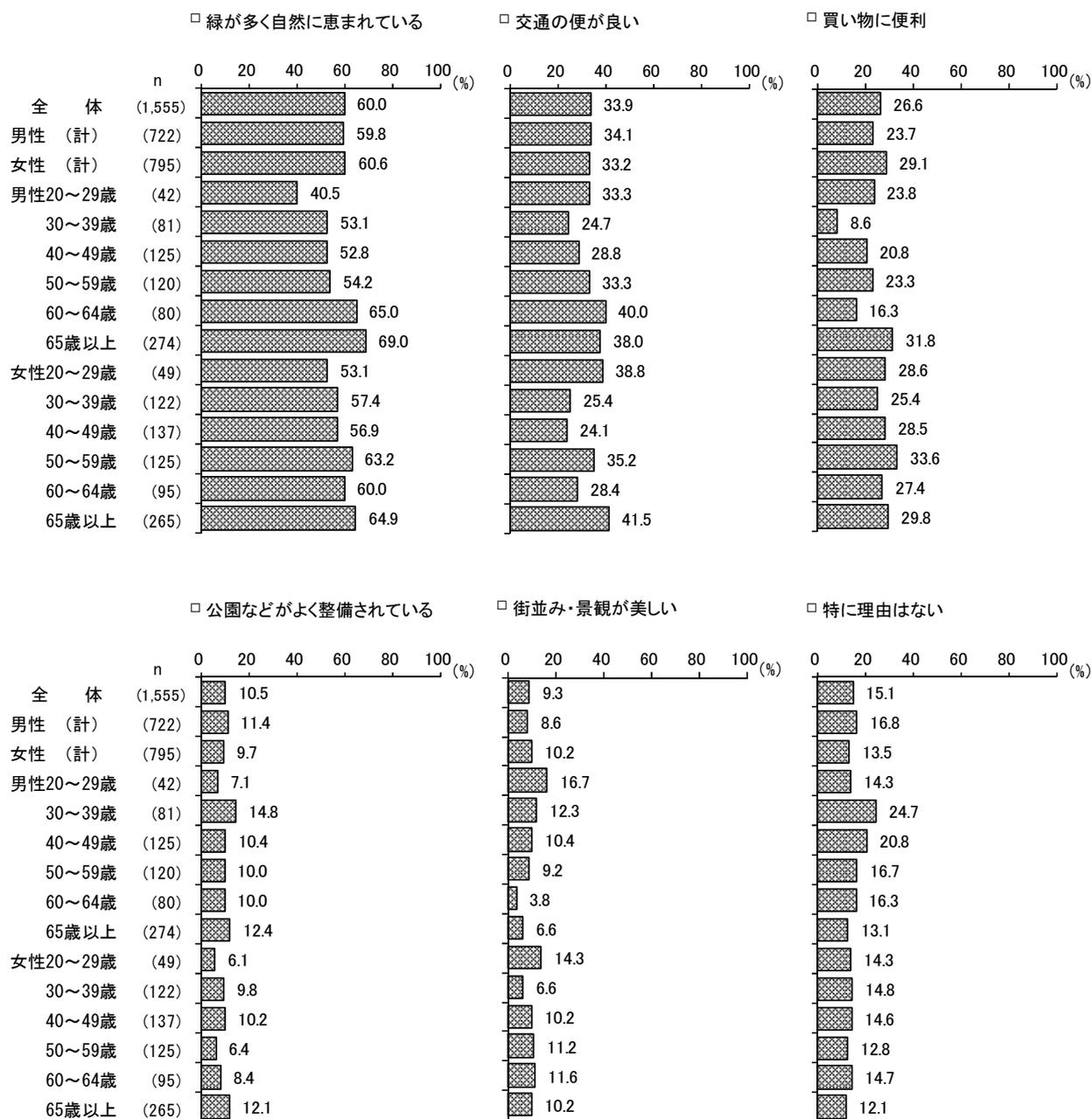
図1-2-1 住み続けたい理由—全体、経年比較



八王子市の定住意向で「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」と回答した1,555人に、住み続けたい理由を聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれてる」(60.0%)が最も多く6割となっている。次いで「交通の便が良い」(33.9%)、「買い物に便利」(26.6%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、住み続けたい理由に大きな変化はみられない。(図1-2-1)

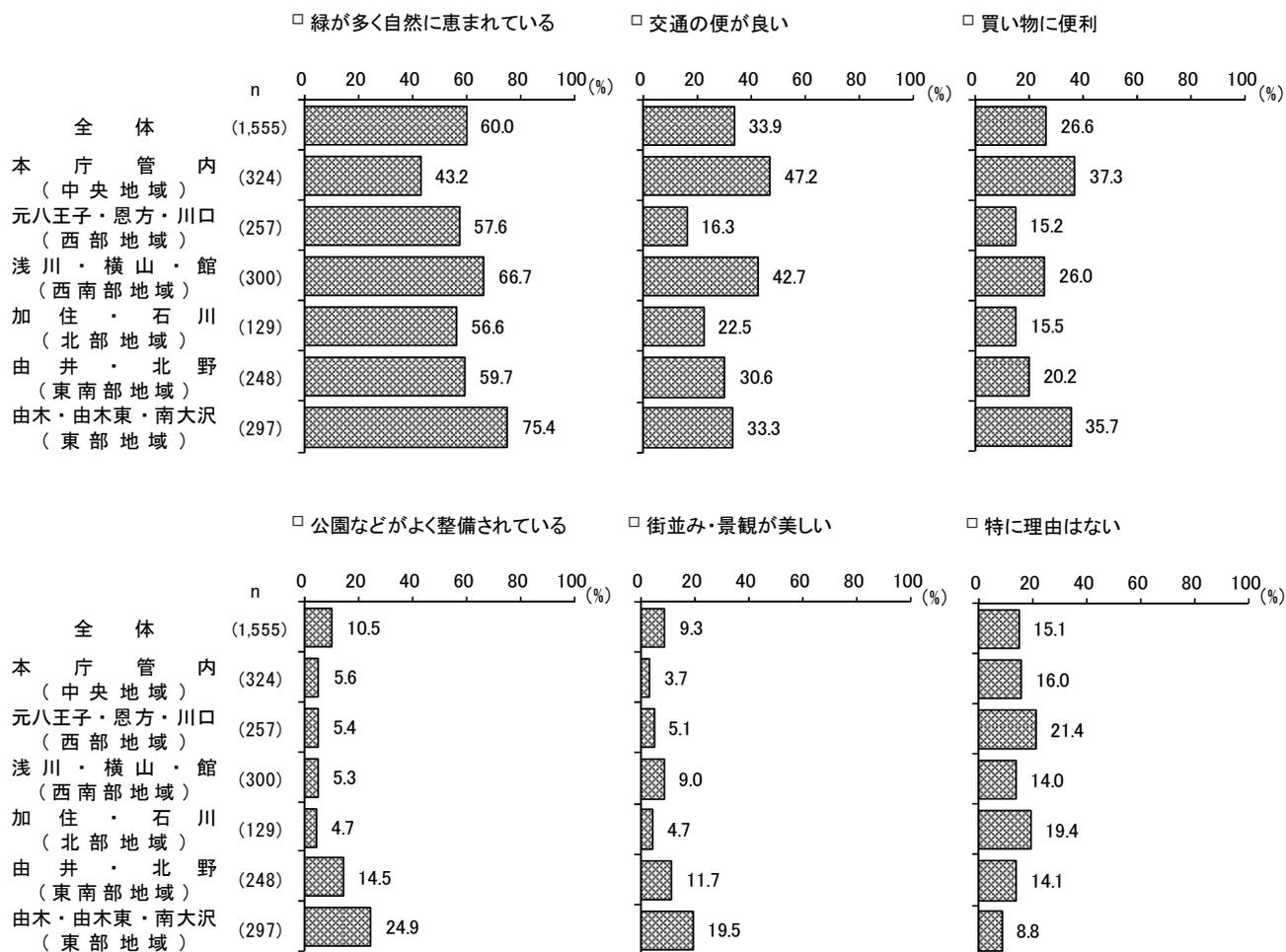
図 1-2-2 住み続けたい理由—性別・年齢別（上位5位+「特に理由はない」）



性別にみると、「買い物に便利」は女性の方が男性よりも5.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は男性の20~29歳を除くすべての年代で5割を超えている。また、「買い物に便利」は男性の65歳以上（31.8%）と女性の50~59歳（33.6%）で3割強となっている。（図1-2-2）

図1-2-3 住み続けたい理由—居住地地域別（上位5位＋「特に理由はない」）



居住地地域別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（75.4%）で7割台半ばと最も多くなっている。また、「買い物に便利」は本庁管内（中央地域）（37.3%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（35.7%）で3割台半ばを超えて多くなっている。（図1-2-3）

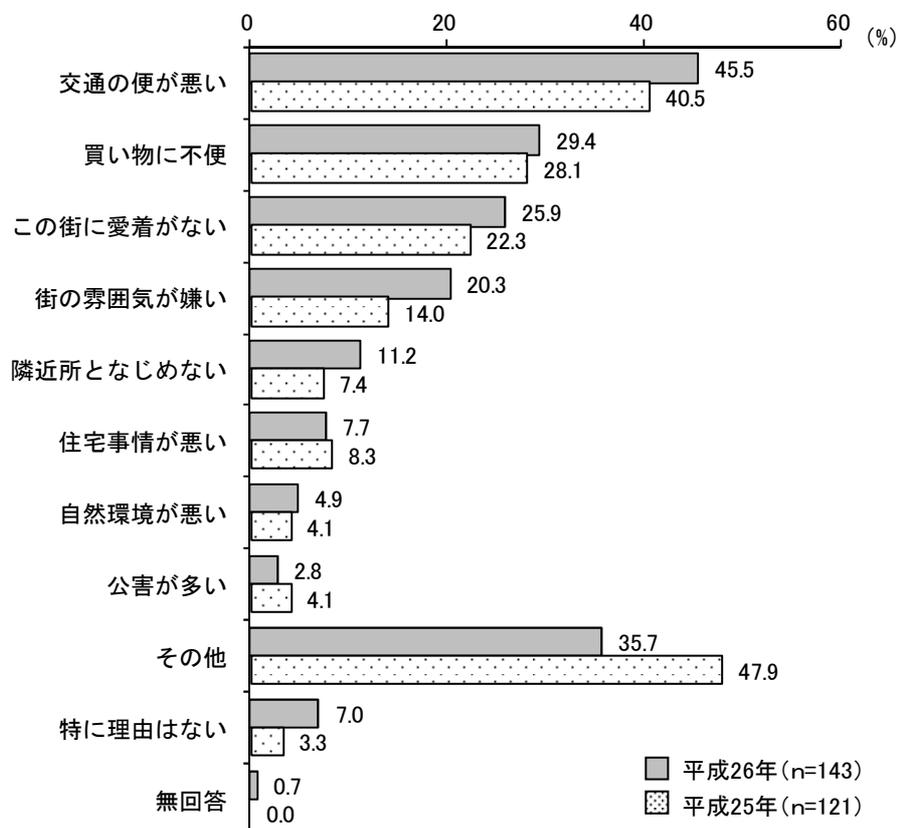
(3) 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が4割台半ば

(問1で「3 市外へ移りたい」とお答えの方に)

問1-2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

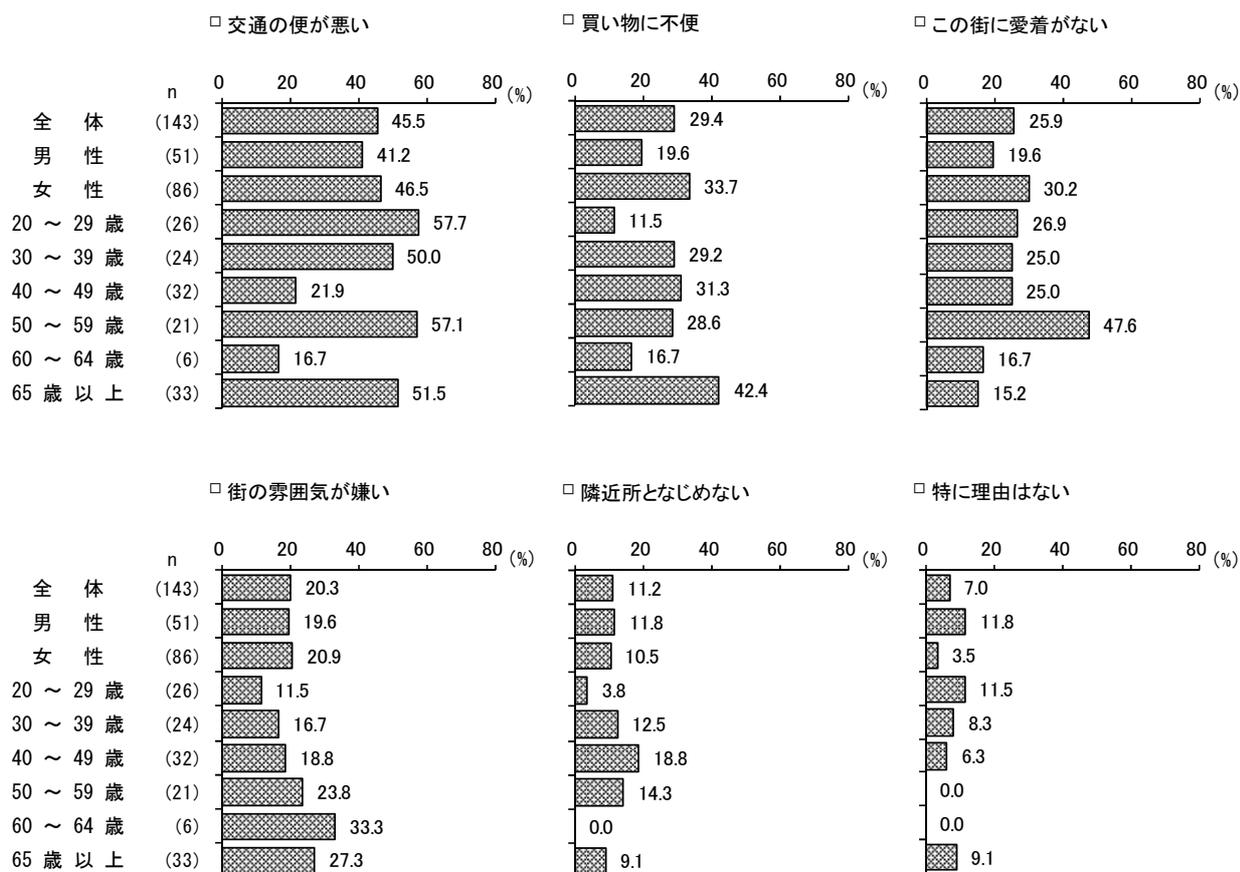
図1-3-1 市外へ移りたい理由—全体、経年比較



八王子市の定住意向で「市外へ移りたい」と回答した143人に、市外へ移りたい理由を聞いたところ、「交通の便が悪い」(45.5%)が4割台半ばと多くなっている。次いで「買い物に不便」(29.4%)、「この街に愛着がない」(25.9%)、「街の雰囲気が嫌い」(20.3%)、「隣近所となじめない」(11.2%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「街の雰囲気が嫌い」は6.3ポイント、「交通の便が悪い」は5.0ポイント増加している。(図1-3-1)

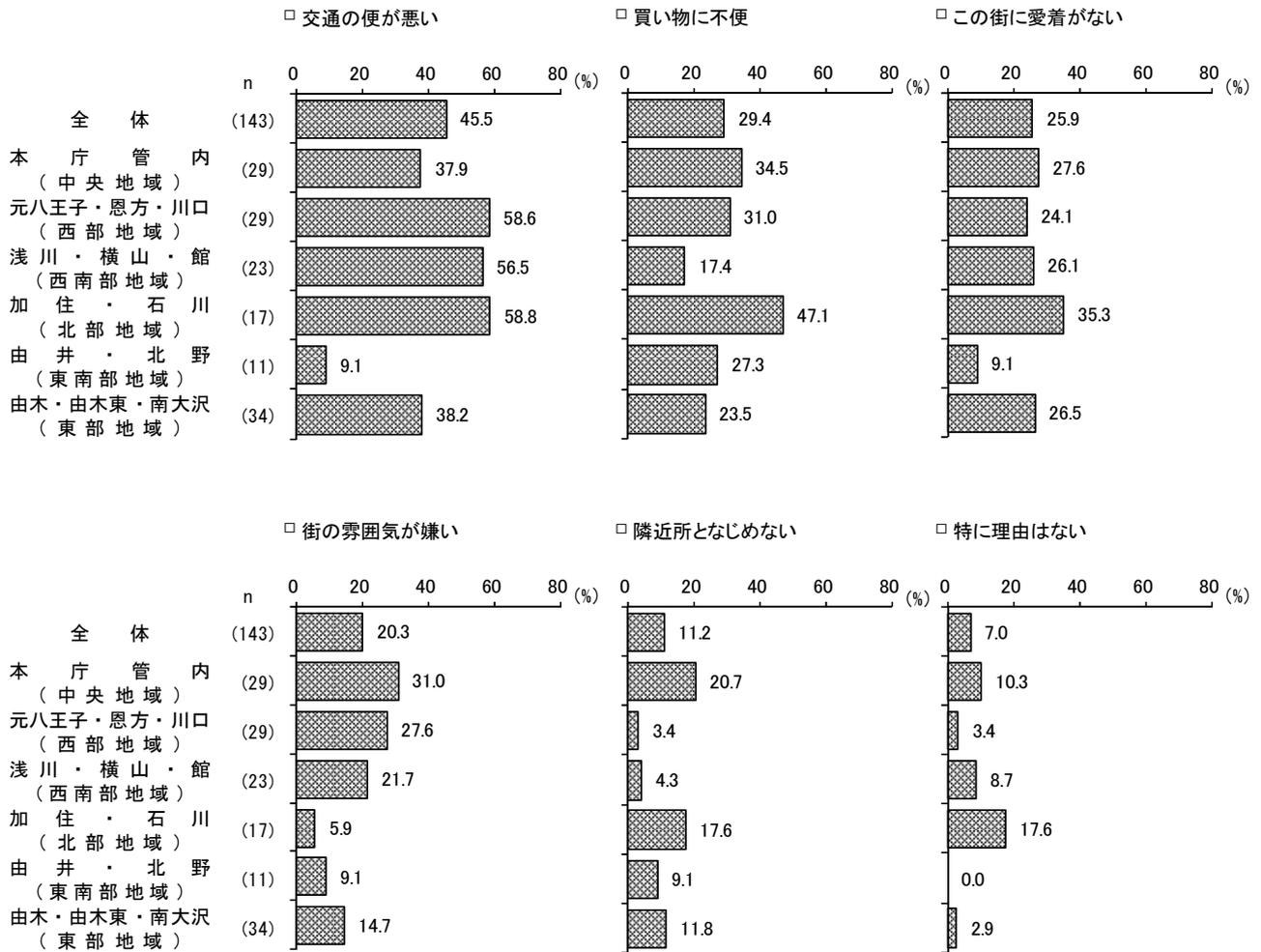
図 1-3-2 市外へ移りたい理由－性別・年齢別（上位 5 位＋「特に理由はない」）



性別にみると、「買い物に不便」は女性の方が男性よりも14.1ポイント、「この街に愛着がない」は10.6ポイント高くなっている。一方、「特に理由はない」は男性の方が女性よりも8.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「交通の便が悪い」は20～29歳（57.7%）、30～39歳（50.0%）、50～59歳（57.1%）及び65歳以上（51.5%）で5割以上と多くなっている。また、「買い物に不便」は65歳以上（42.4%）で4割強、「この街に愛着がない」は50～59歳（47.6%）で5割近くと、他の年代と比較して多くなっている。（図 1-3-2）

図1-3-3 市外へ移りたい理由—居住地別（上位5位+「特に理由はない」）



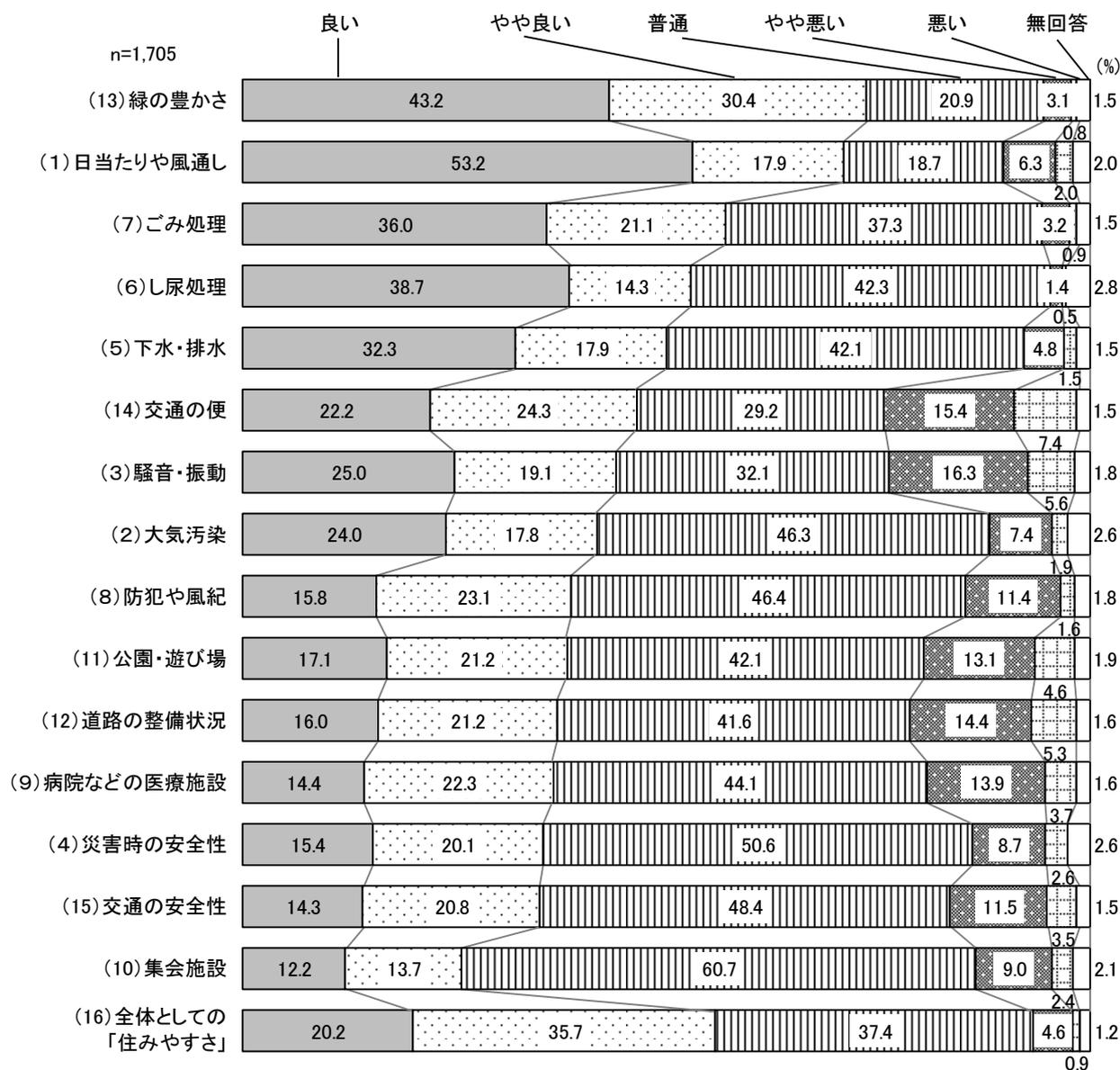
居住地域別にみると、「交通の便が悪い」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（58.6%）、浅川・横山・館（西南部地域）（56.5%）及び加住・石川（北部地域）（58.8%）で6割近くと多くなっている。また、「買い物に不便」は加住・石川（北部地域）（47.1%）で5割近くと多くなっている。（図1-3-3）

(4) 生活環境の評価

◇《良い》は、「緑の豊かさ」と「日当たりや風通し」で7割以上

問2 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

図1-4-1 生活環境の評価－全体



※【(16) 全体としての「住みやすさ」】を除き、「良い」と「やや良い」の合算で比率の高い順に並べた

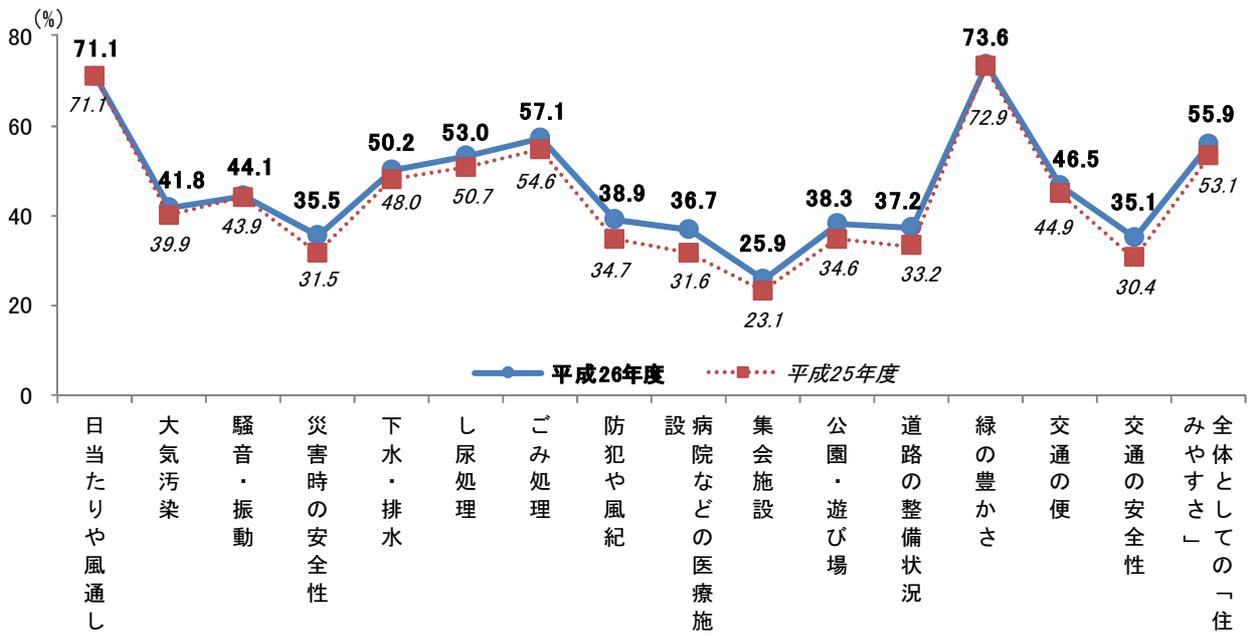
周囲の生活環境について聞いたところ、「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》は、「緑の豊かさ」(73.6%)と「日当たりや風通し」(71.1%)で7割以上となっている。

一方、「やや悪い」と「悪い」を合わせた《悪い》は、「交通の便」(22.8%)と「騒音・振動」(21.9%)で2割以上と多くなっている。

「全体としての「住みやすさ」は《良い》(55.9%)が5割台半ばとなっている。

(図1-4-1)

図 1-4-2 生活環境の評価一経年比較（「良い」＋「やや良い」）



《良い》について前回調査と比較すると、すべての項目において割合が多くなっている。特に、「病院などの医療施設」は5.1ポイント、「交通の安全性」は4.7ポイント増加している。

(図 1-4-2)

加重平均値（満足度）

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比率をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \left[\left(\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} \right) + \left(\text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} \right) + \left(\text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} \right) + \left(\text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} \right) + \left(\text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点} \right) \right] \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は5.00点から1.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど満足度は高くなり、1.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

図 1-4-3 生活環境の評価—加重平均（満足度）



(注) は項目内での最高値 は項目内での最低値

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの5項目は次のようになっている。

【上位】

- 日当たりや風通し (4.16点)
- 緑の豊かさ (4.14点)
- し尿処理 (3.92点)
- ごみ処理 (3.89点)
- 下水・排水 (3.76点)

【下位】

- 集会施設 (3.25点)
- 道路の整備状況 (3.29点)
- 病院などの医療施設 (3.30点)
- 交通の安全性 (3.31点)
- 公園・遊び場 (3.34点)

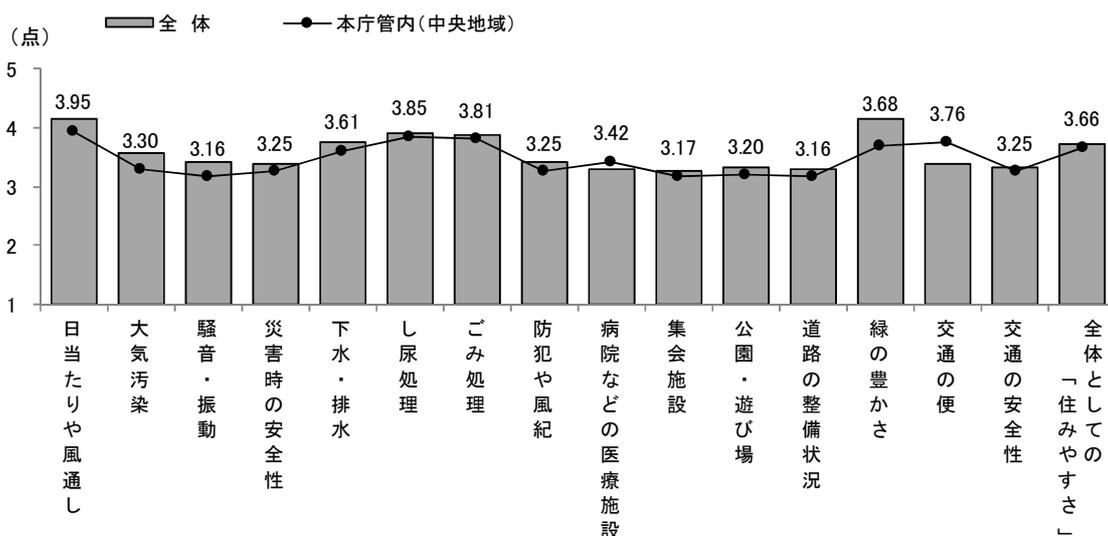
(図 1-4-3)

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは16項目中2項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(+0.37ポイント)となっている。下回っているのは16項目中14項目で、最も差が大きいのは「緑の豊かさ」(-0.46ポイント)となっている。(図1-4-4)

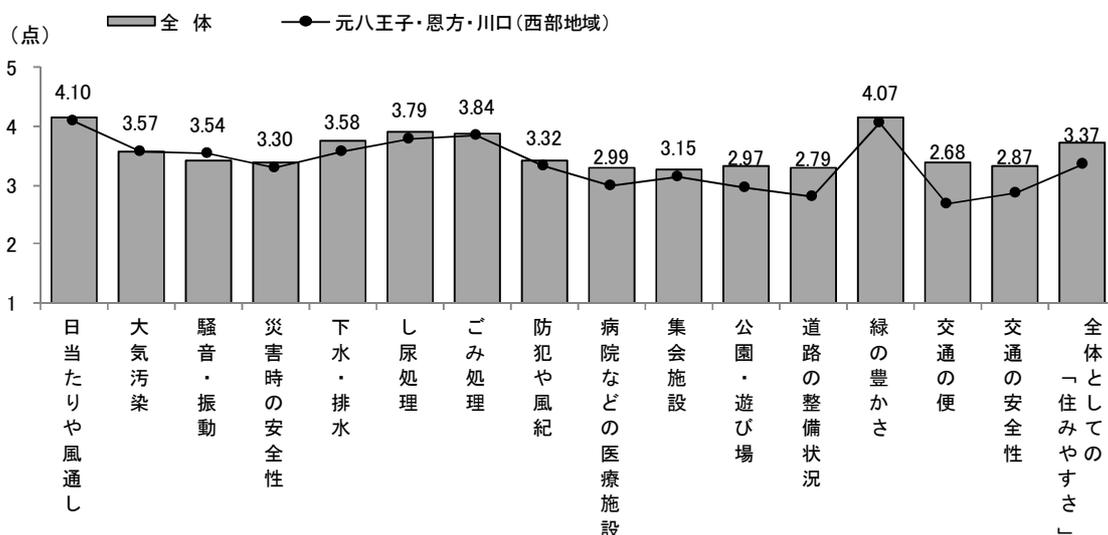
図1-4-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「本庁管内(中央地域)」



【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中2項目で、最も差が大きいのは「騒音・振動」(+0.12ポイント)となっている。下回っているのは16項目中14項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(-0.71ポイント)、次に差が大きいのは「道路の整備状況」(-0.50ポイント)となっている。(図1-4-5)

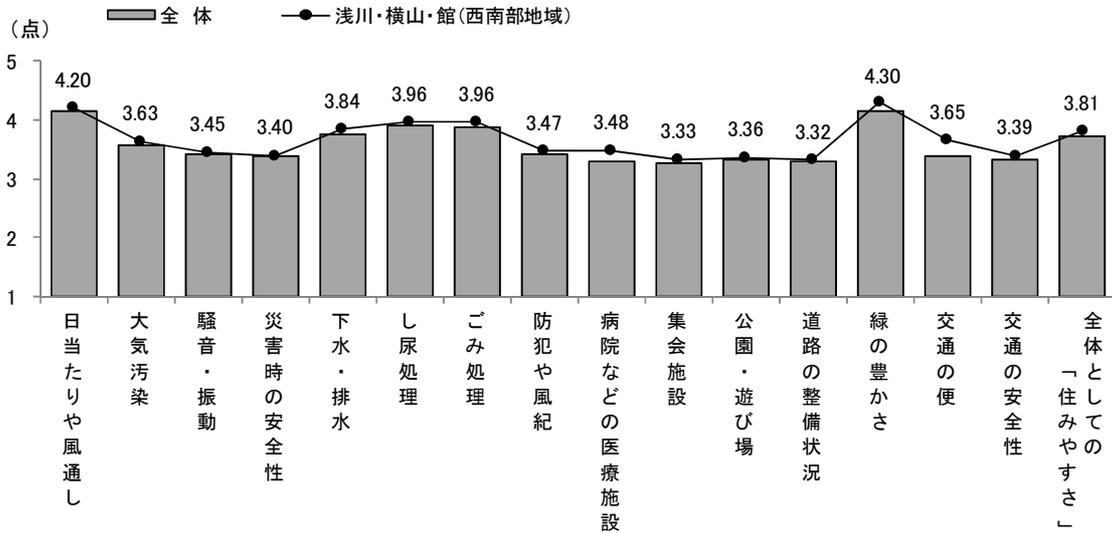
図1-4-5 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「元八王子・恩方・川口(西部地域)」



【浅川・横山・館（西南部地域）】

すべての項目において市全体より上回っており、最も差が大きいのは「交通の便」(+0.26ポイント)となっている。次に差が大きいのは「病院などの医療施設」(+0.18ポイント)、「緑の豊かさ」(+0.16ポイント)となっている。(図1-4-6)

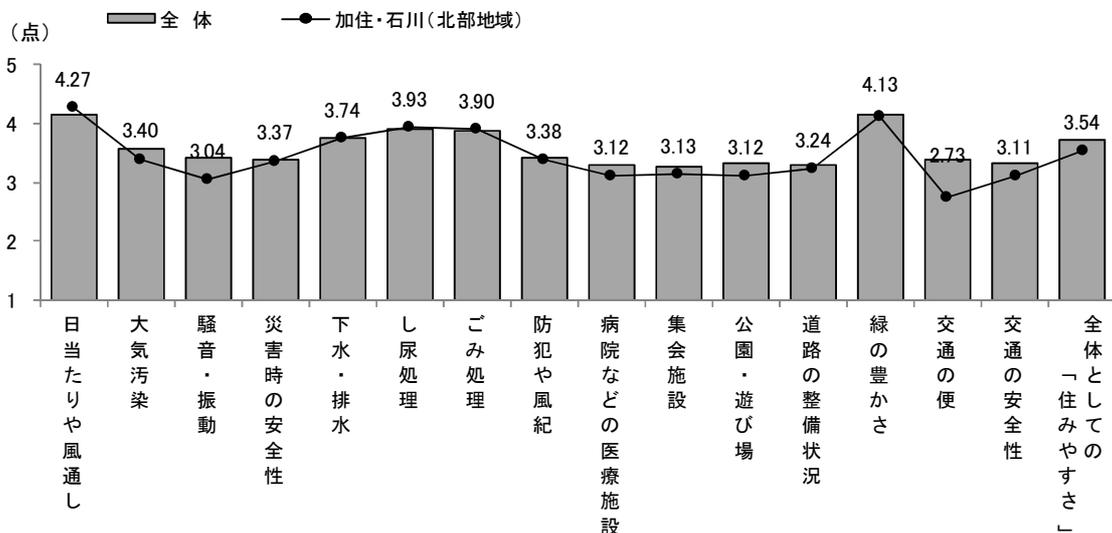
図1-4-6 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「浅川・横山・館(西南部地域)」



【加住・石川（北部地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中3項目で、最も差が大きいのは「日当たりや風通し」(+0.11ポイント)となっている。下回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(-0.66ポイント)、次に差が大きいのは「騒音・振動」(-0.38ポイント)となっている。(図1-4-7)

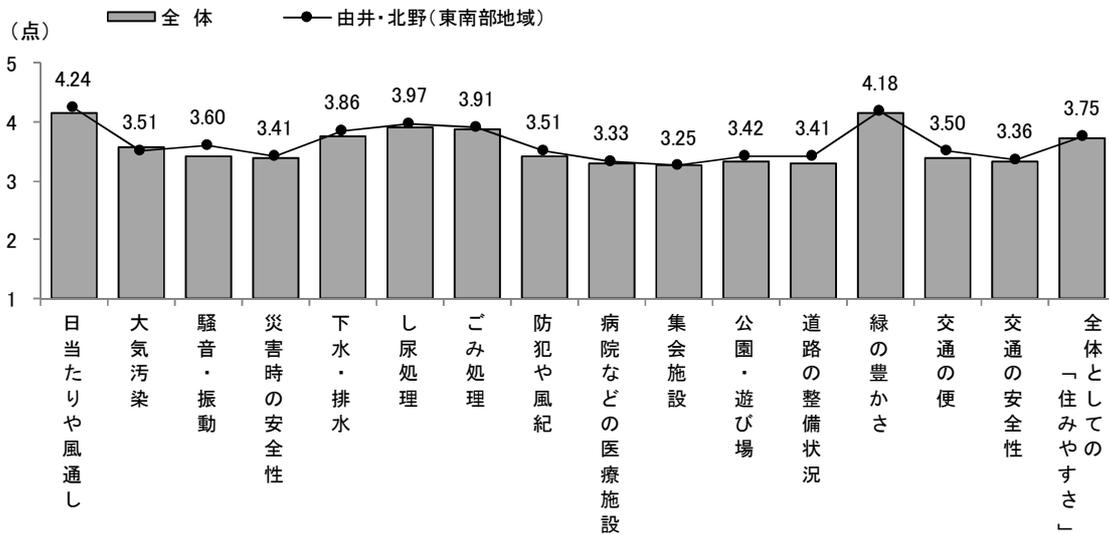
図1-4-7 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「加住・石川(北部地域)」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中14項目で、最も差が大きいのは「騒音・振動」(+0.18ポイント)、次に差が大きいのは「道路の整備状況」(+0.12ポイント)となっている。下回っているのは16項目中1項目で、「大気汚染」(-0.05ポイント)となっている。(図1-4-8)

図1-4-8 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由井・北野(東南部地域)」

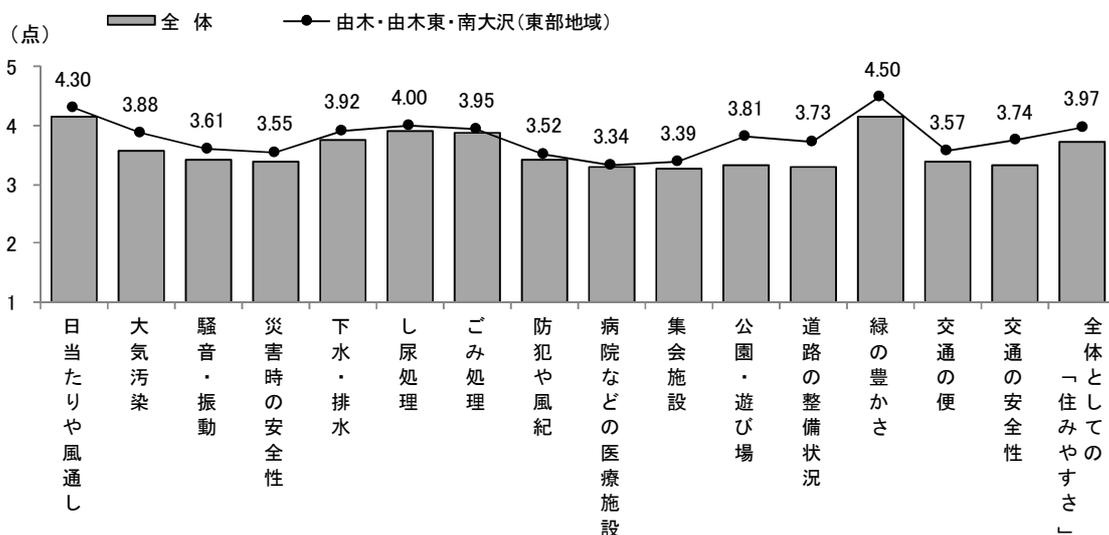


【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

すべての項目において市全体より上回っており、16項目中13項目で最高値を示している。最も差が大きいのは「公園・遊び場」(+0.47ポイント)となっている。次に差が大きいのは「道路の整備状況」(+0.44ポイント)、次いで「交通の安全性」(+0.43ポイント)となっている。

(図1-4-9)

図1-4-9 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由木・由木東・南大沢(東部地域)」

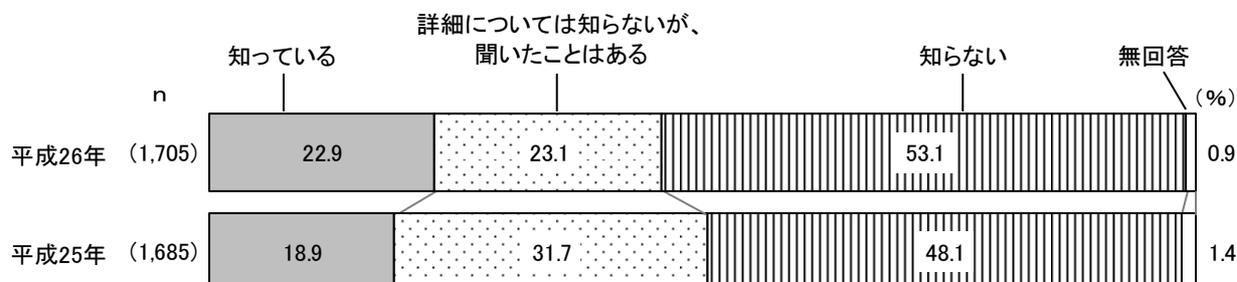


(5) 中核市移行の周知度

◇《知っている》が5割近く

問3 あなたは、市が来年（平成27年4月）中核市となる準備をしていることを知っていますか。（〇は1つだけ）

図1-5-1 中核市移行の周知度－全体、経年比較



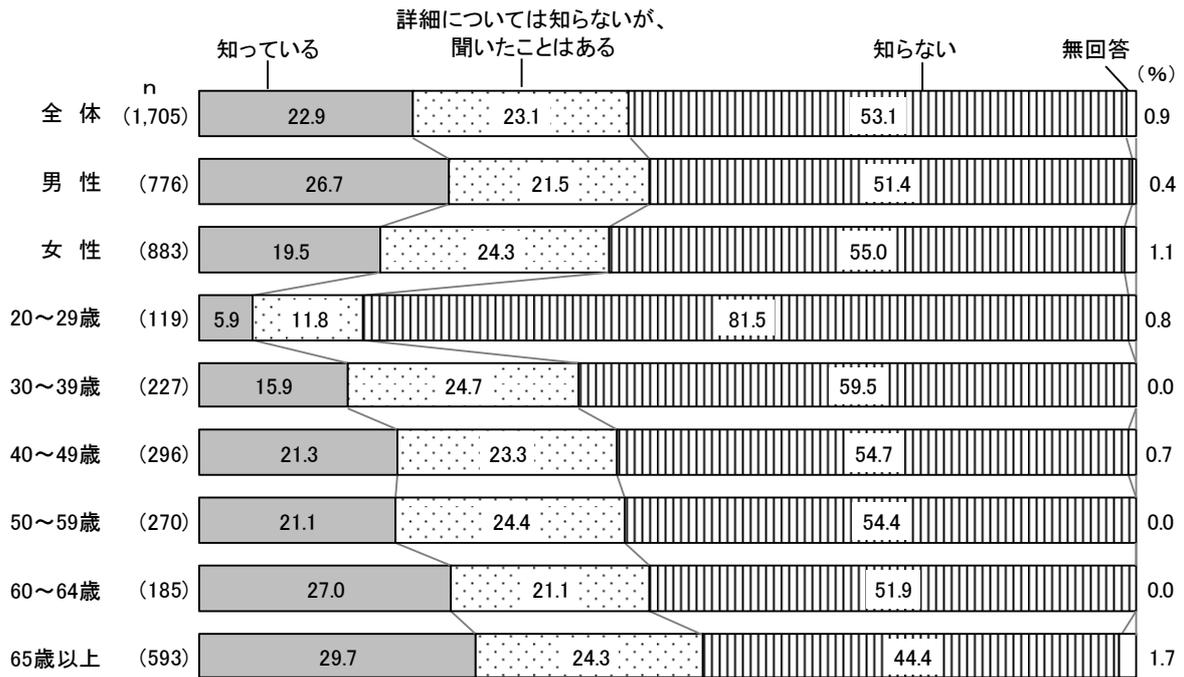
※平成25年の設問は、【あなたは、本市が中核市への移行を目指していることを知っていますか。】

※平成25年の選択肢は、【聞いたことはあるが、詳細については知らない。】

市が中核市となる準備をしていることを知っているか聞いたところ、「知っている」(22.9%)が2割強を占めており、「詳細については知らないが、聞いたことはある」(23.1%)と合わせた《知っている》(46.0%)は5割近くとなっている。一方、「知らない」(53.1%)は5割強となっている。

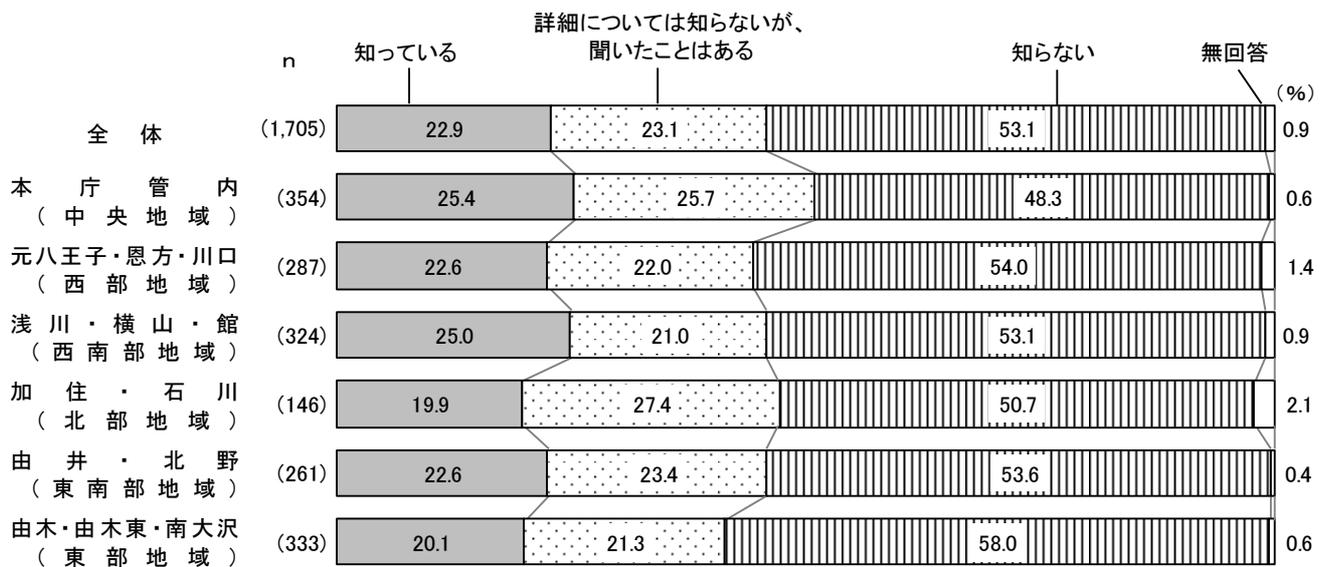
前回調査と比較すると、「知っている」は4.0ポイント、「知らない」は5.0ポイント増加している。(図1-5-1)

図 1-5-2 中核市移行の周知度—性別・年齢別



性別にみると、「知っている」は男性の方が女性よりも7.2ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「知っている」は年代が上がるにつれて割合が多くなり、65歳以上（29.7%）では3割弱となっている。（図 1-5-2）

図 1-5-3 中核市移行の周知度—居住地地域別



居住地地域別にみると、「知っている」は本庁管内（中央地域）（25.4%）と浅川・横山・館（西南部地域）（25.0%）で2割台半ばと多くなっている。（図 1-5-3）

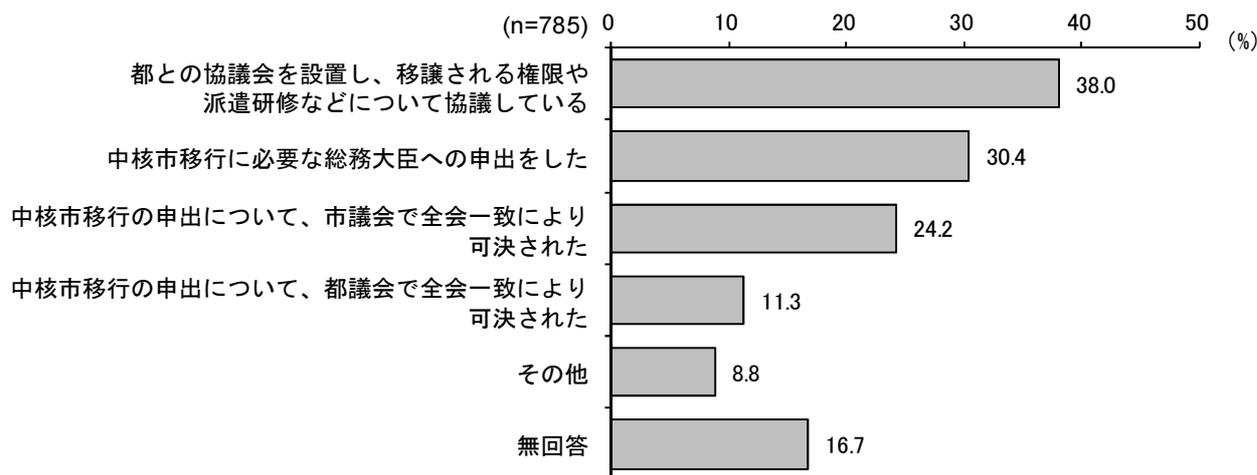
(6) 中核市移行の取り組み

◇「都との協議会を設置し、移譲される権限や派遣研修などについて協議している」が4割近く

(問3で「1 知っている」または「2 聞いたことはある」とお答えの方に)

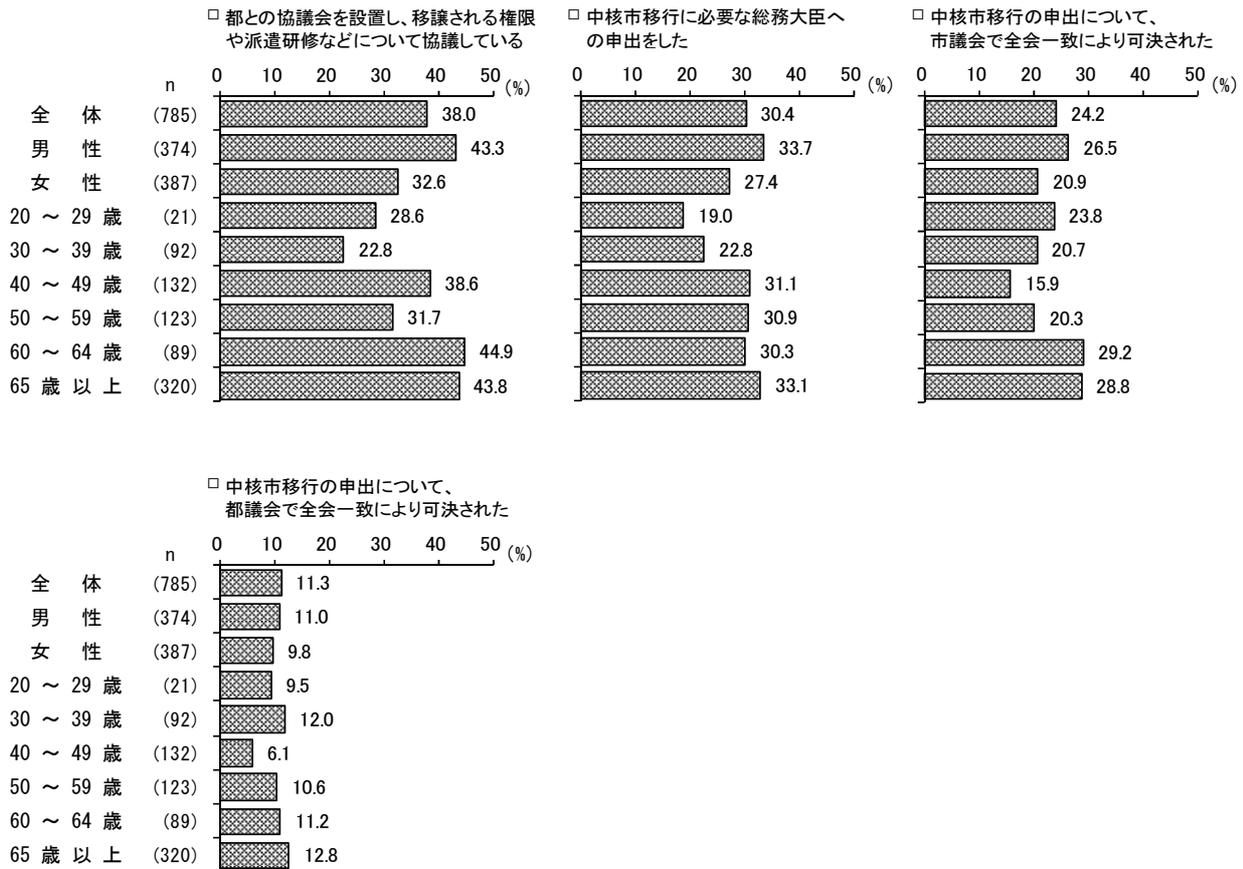
問3-1 中核市移行の取り組みについて聞いたことがある内容は何ですか。(○はいくつでも)

図1-6-1 中核市移行の取り組み—全体



中核市となる準備をしていることを「知っている」「詳細については知らないが、聞いたことはある」と回答した785人に、聞いたことがある内容を聞いたところ、「都との協議会を設置し、移譲される権限や派遣研修などについて協議している」(38.0%)が最も多く4割近くとなっている。次いで「中核市移行に必要な総務大臣への申出をした」(30.4%)、「中核市移行の申出について、市議会で全会一致により可決された」(24.2%)、「中核市移行の申出について、都議会で全会一致により可決された」(11.3%)の順となっている。(図1-6-1)

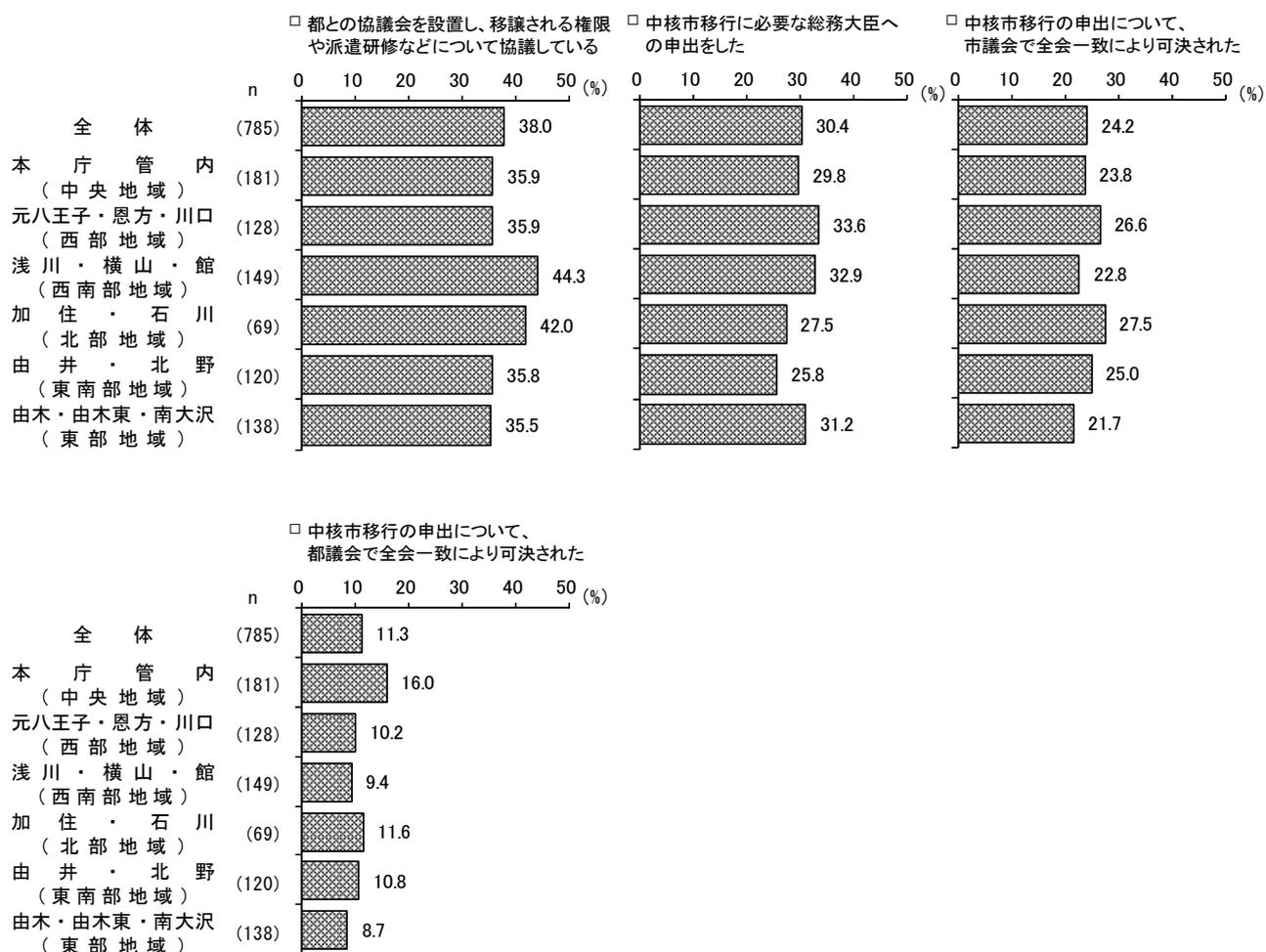
図 1-6-2 中核市移行の取り組み—性別・年齢別



性別にみると、「都との協議会を設置し、移譲される権限や派遣研修などについて協議している」は男性の方が女性よりも10.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「都との協議会を設置し、移譲される権限や派遣研修などについて協議している」は60～64歳（44.9%）と65歳以上（43.8%）で4割以上と多く、30～39歳と比較して2倍近くを占めている。一方、「中核市移行に必要な総務大臣への申出をした」は20～29歳（19.0%）で2割弱と、他の年代と比較して少なくなっている。（図1-6-2）

図 1-6-3 中核市移行の取り組み—居住地域別



居住地域別にみると、「都との協議会を設置し、移譲される権限や派遣研修などについて協議している」は浅川・横山・館（西南部地域）（44.3%）と加住・石川（北部地域）（42.0%）で4割以上と多くなっている。（図1-6-3）

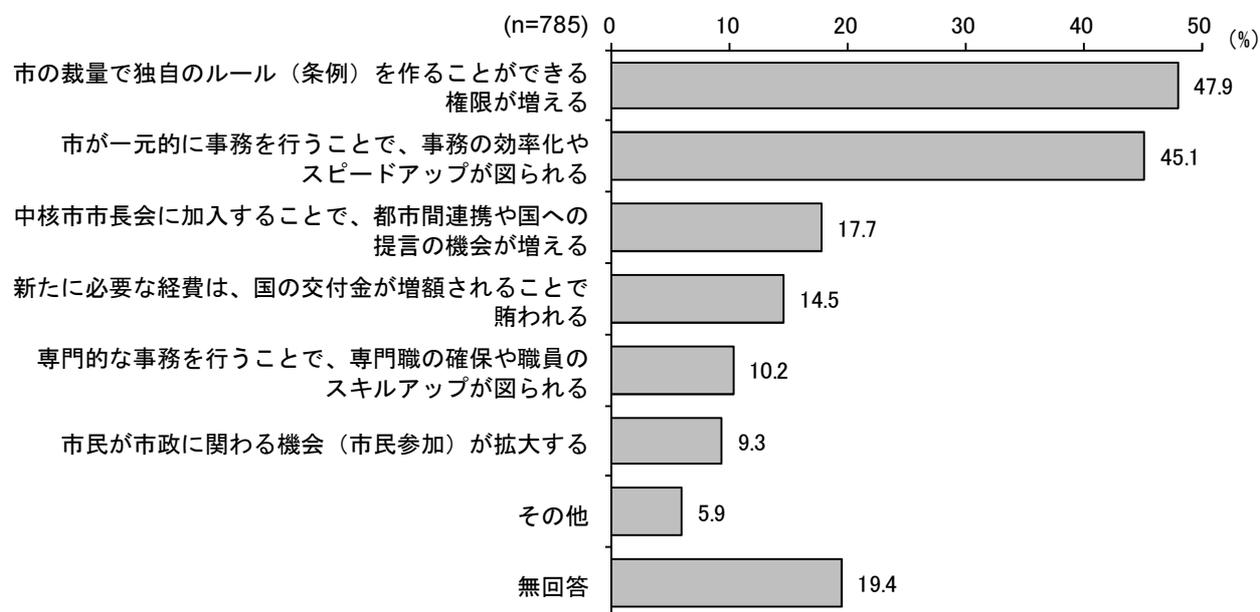
(7) 中核市移行の影響

◇「市の裁量で独自のルール（条例）を作ることができる権限が増える」が5割近く

(問3で「1 知っている」または「2 聞いたことはある」とお答えの方に)

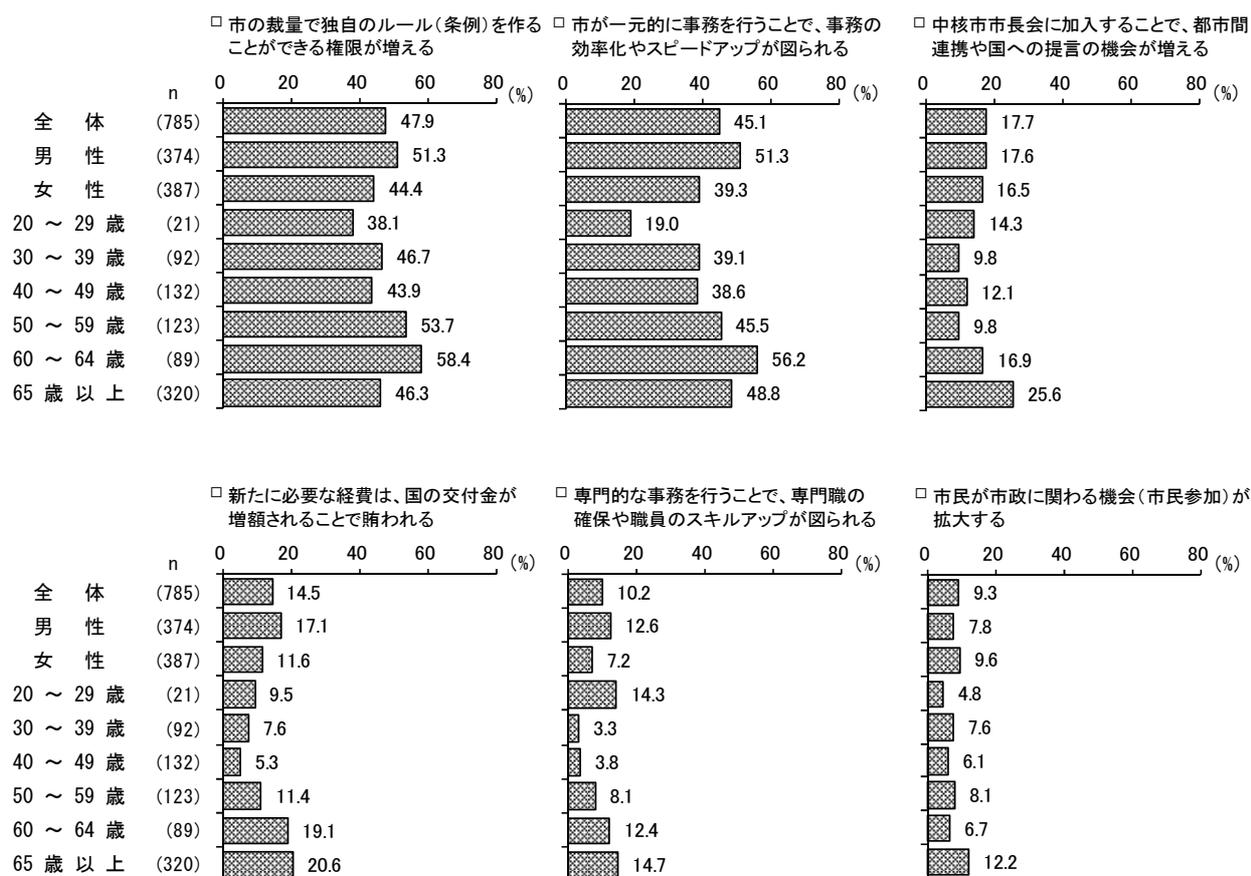
問3-2 中核市移行の影響について聞いたことがある内容は何ですか。(〇はいくつでも)

図1-7-1 中核市移行の影響－全体



中核市となる準備をしていることを「知っている」「詳細については知らないが、聞いたことはある」と回答した785人に、中核市移行の影響について聞いたことがある内容を聞いたところ、「市の裁量で独自のルール（条例）を作ることができる権限が増える」（47.9%）が5割近く、「市が一元的に事務を行うことで、事務の効率化やスピードアップが図られる」（45.1%）が4割台半ばと多くなっている。次いで「中核市市長会に加入することで、都市間連携や国への提言の機会が増える」（17.7%）、「新たに必要な経費は、国の交付金が増額されることで賄われる」（14.5%）、「専門的な事務を行うことで、専門職の確保や職員のスキルアップが図られる」（10.2%）などの順となっている。（図1-7-1）

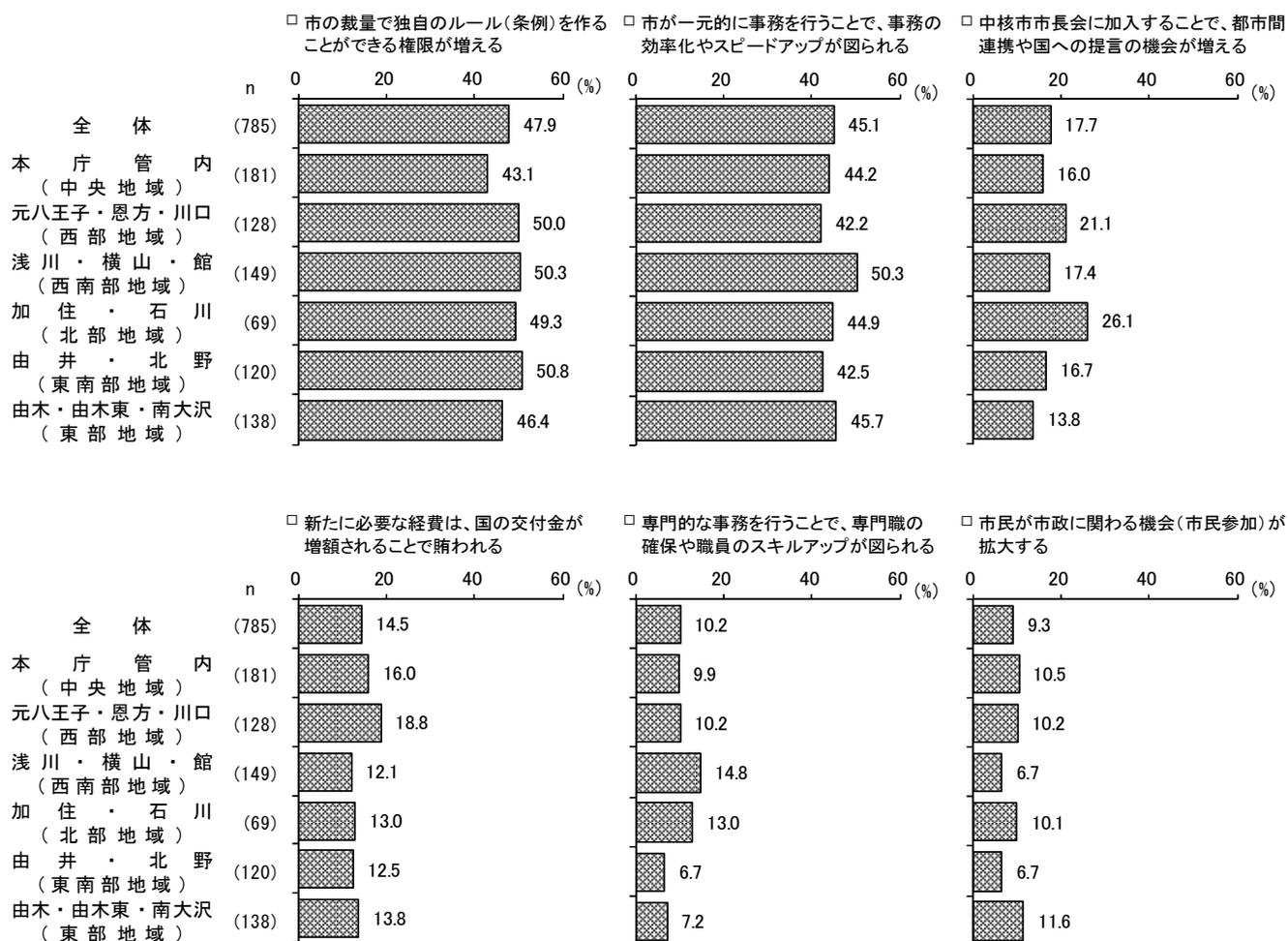
図 1-7-2 中核市移行の影響－性別・年齢別



性別にみると、「市が一元的に事務を行うことで、事務の効率化やスピードアップが図られる」は男性の方が女性よりも12.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「市の裁量で独自のルール(条例)を作ることができる権限が増える」は50～59歳(53.7%)と60～64歳(58.4%)で5割以上と多くなっている。また、「市が一元的に事務を行うことで、事務の効率化やスピードアップが図られる」は60～64歳(56.2%)で6割近くと、他の年代と比較して多くなっている。(図1-7-2)

図1-7-3 中核市移行の影響—居住地域別



居住地域別にみると、「市が一元的に事務を行うことで、事務の効率化やスピードアップが図られる」は浅川・横山・館（西南部地域）（50.3%）で約5割と多くなっている。また、「中核市市長会に加入することで、都市間連携や国への提言の機会が増える」は加住・石川（北部地域）（26.1%）で3割近くと、他の地域と比較して多くなっている。（図1-7-3）